

外科領域 専攻医評価表／実績記録

- 1 外科専攻医は、専攻医マニュアルにある到達目標と経験目標を3年の専攻期間中に達成することが求められます。
(3年で修了できない場合は、追加の研修を行うことによって修了を目指します)
- 2 専門医研修でどのような能力を身につけたかは、この評価表で証明されます。
- 3 外科医には、知識・技能(Skill)だけでなく、医師としての責任感、倫理感なども求められます。
これらはコア・コンピテンシーと呼ばれ、社会からも適正な評価が求められています。

《評価の方法》

- 専攻医は、まず「自己評価」を記入した後に、指導医からの評価を受けます。
- プログラムに示された時期(少なくとも年一回)に、評価の記録を残すことが求められます。
- 専門医研修の修了判定を受ける際には、この評価表を専門研修プログラム管理委員会に提出して、最終的な評価を受けなければなりません。

《自己評価と指導医評価の基準》

【知識】

【技能】

【症例】

- A 十分に理解して相談に応じられる。
(手術・手技が)独力で実施できる。
主治医(主たる担当医)として自ら経験し、手術に参加した。
 - B 的確に内容を説明できる。
上級医の指導介助をもとに実施できる。
間接的に経験している(実症例をチームとして経験した。または症例検討会を通して経験した)。
 - C 知識はあるが実践に至らない。
概要を説明できる・手伝うことができる。
レクチャー、セミナー、学会で学習した。
 - D 知識が不足している。
臨床の実践が行えない。
学習していない。
- N/A 評価に該当しない。

専攻医氏名 : _____ ()年目 : _____

専門研修実施施設 : _____ 研修期間 : _____

プログラム統括責任者 : _____ 指導医署名 : _____

研修実施状況

あなたがこれまで研修を行った施設名（カッコ内に所在都道府県名及び基幹病院・連携病院の別）、研修期間について記入下さい。

【例】

診療科 1 : (心臓血管外科 (なるべく詳しく書いて下さい)) 期間 : (4か月)

研修施設名 : (厚生労働病院 (基幹) ・ 連携 / 東京都))

診療科 2 : (呼吸器外科 (なるべく詳しく書いて下さい)) 期間 : (4か月)

研修施設名 : (厚生労働病院 (基幹) ・ 連携 / 東京都))

【回答】

診療科 1 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

診療科 2 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

診療科 3 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

診療科 4 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

診療科 5 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

診療科 6 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

診療科 7 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

診療科 8 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

診療科 9 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

診療科 10 : () 期間 : ()

研修施設名 : ((基幹・連携 /))

専攻医氏名： ()年目：

専門研修実施施設： 研修期間：

プログラム統括責任者： 指導医署名：

コアコンピテンシー	自己評価	指導者評価
1 患者に対するコミュニケーション能力 ① 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。 ② インフォームド・コンセントが実施できる。 ③ 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
2 チーム医療 ① 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。 ② 上級および同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。 ③ 同僚および後輩への教育的配慮ができる。 ④ 患者の転入、転出にあたり情報を交換できる。 ⑤ 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
3 問題対応能力 ① 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への対応を判断できる。 ② 自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。 ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。 ④ 自己管理能力を身につけ、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
4 安全管理 ① 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。 ② 医療事故防止および事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。 ③ 院内感染対策を理解し、実施できる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
5 医療の社会性 ① 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。 ② 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。 ③ 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。 ④ 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A

専攻医が自己評価を記入し、その後で指導者が4段階評価を記入して下さい。
 指導医はDの評価を付けた項目については必ずコメントを記載し改善のためのアドバイスを行ってください。

専攻医氏名 :

()年目 :

専門研修実施施設 :

研修期間 :

プログラム統括責任者 :

指導医署名 :

到達目標1 (専門知識)	自己評価	指導者評価
外科診療に必要な下記の基礎的知識・病態を習熟し、臨床応用できる。		
1 局所解剖 手術をはじめとする外科診療上で必要な局所解剖について述べるができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
2 病理学 外科病理学の基礎を理解している。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
3 腫瘍学		
① 発癌過程、転移形成およびTNM分類について述べるができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 手術、化学療法および放射線療法を含む集学的治療の適応を述べるができる。		
③ 化学療法(抗腫瘍薬、分子標的薬など)と放射線療法の有害事象について理解している。		
4 病態生理		
① 周術期管理や集中治療などに必要な病態生理を理解している。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 手術侵襲の大きさと手術のリスクを判断することができる。		
5 輸液・輸血 周術期・外傷患者に対する輸液・輸血について述べるができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
6 血液凝固と線溶現象		
① 出血傾向を鑑別しリスクを評価することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 血栓症の予防、診断および治療の方法について述べるができる。		
7 栄養・代謝学		
① 病態や疾患に応じた必要熱量を計算し、適切な経腸、経静脈栄養剤の投与、管理について述べるができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 外傷、手術などの侵襲に対する生体反応と代謝の変化を理解できる。		
8 感染症		
① 臓器特有、あるいは疾病特有の細菌の知識を持ち、抗菌薬を適切に選択することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 術後発熱の鑑別診断ができる。		
③ 抗菌薬による有害事象を理解できる。		
④ 破傷風トキソイドと破傷風免疫ヒトグロブリン投与の適応を述べるができる。		
9 免疫学		
① アナフィラキシーショックを理解できる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 移植片対宿主病(Graft versus host disease)の病態を理解し、予防、診断および治療方法について述べるができる。		
③ 組織適合と拒絶反応について述べるができる。		
10 創傷治癒:創傷治癒の基本を理解し、適切な創傷処置を実践することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
11 周術期の管理:病態別の検査計画、治療計画を立てることができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
12 麻酔科学		
① 局所・浸潤麻酔の原理と局所麻酔薬の極量を述べるができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 脊椎麻酔の原理を述べるができる。		
③ 気管挿管による全身麻酔の原理を述べるができる。		
④ 硬膜外麻酔の原理を述べるができる。		
13 集中治療		
① 集中治療について述べるができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 基本的な人工呼吸管理について述べるができる。		
③ 播種性血管内凝固症候群(DIC)と多臓器不全(MOF)の病態を理解し、適切な診断・治療を行うことができる。		
14 救命・救急医療		
① 蘇生術について理解し、実践することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② ショックを理解し、初療を実践することができる。		
③ 重度外傷の病態を理解し、初療を実践することができる。		
④ 重度熱傷の病態を理解し、初療を実践することができる。		

専攻医氏名 :

()年目 :

専門研修実施施設 :

研修期間 :

プログラム統括責任者 :

指導医署名 :

到達目標2(専門技能)	自己評価	指導者評価
外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、それらの臨床応用ができる。		
1 下記の検査手技ができる。		
① 超音波検査: 自身で実施し、病態を診断できる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② エックス線単純撮影, CT, MRI: 適応を決定し、読影することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
③ 上・下部消化管造影, 血管造影等: 適応を決定し、読影することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
④ 上・下部消化管内視鏡検査, 気管支内視鏡検査, 術中胆道鏡検査, ERCP等の必要性を判断し、読影することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑤ 心臓カテーテル: 必要性を判断することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑥ 呼吸機能検査の適応を決定し、結果を解釈できる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
2 周術期管理ができる。		
① 術後疼痛管理の重要性を理解し、これを行うことができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 周術期の補正輸液と維持療法を行うことができる。		
③ 輸血量を決定し、成分輸血を含め適切に施行できる。		
④ 出血傾向に対処できる。		
⑤ 血栓症の治療について述べるができる。		
⑥ 経腸栄養の投与管理ができる。		
⑦ 抗菌薬の適正な使用ができる。		
⑧ 抗菌薬の適正な使用ができる。		
⑨ デブリードマン, 切開およびドレナージを適切にできる。		
3 次の麻酔手技を安全に行うことができる。		
① 局所・浸潤麻酔	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 脊椎麻酔		
③ 硬膜外麻酔(望ましい)		
④ 気管挿管による全身麻酔		
4 外傷の診断・治療ができる。		
① すべての専門領域の外傷の初期治療ができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 多発外傷における治療の優先度を判断し、トリアージを行うことができる。		
③ 緊急手術の適応を判断し、それに対処することができる。		
5 以下の手技を含む外科的クリティカルケアができる。		
① 心肺蘇生法—一次救命処置(Basic Life Support)、二次救命処置(Advanced Life Support)	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
② 動脈穿刺	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
③ 中心静脈カテーテルの挿入とそれによる循環管理	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
④ 人工呼吸器による呼吸管理	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑤ 気管支鏡による気道管理	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑥ 熱傷初期輸液療法	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑦ 気管切開, 輪状甲状軟骨切開	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑧ 心嚢穿刺	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑨ 胸腔ドレナージ	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑩ ショックの診断と原因別治療(輸液, 輸血, 成分輸血, 薬物療法を含む)	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑪ 播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)、全身性炎症反応症候群(SIRS)、代償性炎症性反応症候群(CARS)の診断と治療	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
⑫ 化学療法(抗腫瘍薬, 分子標的薬など)と放射線療法の有害事象に対処することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
6 外科系サブスペシャリティまたはそれに準ずる外科関連領域の分野の初期治療ができ、かつ、専門医への転送の必要性を判断することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A

専攻医氏名：	()年目：
専門研修実施施設：	研修期間：
プログラム統括責任者：	指導医署名：

到達目標3(学問的姿勢)	自己評価	指導者評価
外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し実行できる。		
1 カンファレンス、その他の学術集会に出席し、積極的に討論に参加することができる。日本外科学会定期学術集会に1回以上参加する。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
2 専門の学術出版物や研究発表に接し、批判的吟味をすることができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
3 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
	発表()件 論文()篇	
4 学術研究の目的で、または症例の直面している問題解決のため、資料の収集や文献検索を独力で行うことができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A

到達目標4(倫理性、社会性など)	自己評価	指導者評価
外科診療を行う上で、医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとして適切な態度と習慣を身に付ける。		
1 医療行為に関する法律を理解し遵守できる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
2 患者およびその家族と良好な信頼関係を築くことができるよう、コミュニケーション能力と協調による連携能力を身につける。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
3 外科診療における適切なインフォームド・コンセントをえることができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
4 関連する医療従事者と協調・協力してチーム医療を実践することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
5 ターミナルケアを適切に行うことができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
6 インシデント・アクシデントが生じた際、的確に処置ができ、患者に説明することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
7 初期臨床研修医や学生などに、外科診療の指導をすることができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
8 すべての医療行為、患者に行った説明など治療の経過を书面化し、管理することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
9 診断書・証明書などの書類を作成、管理することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A

専攻医氏名 :

()年目 :

専門研修実施施設 :

研修期間 :

プログラム統括責任者 :

指導医署名 :

経験目標	自己評価	指導者評価
外科診療に必要な下記の疾患を経験または理解する。		
(1) 消化管および腹部内臓		
1 食道疾患 ① 食道癌 ② 胃食道逆流症(食道裂孔ヘルニアを含む) ③ 食道アカラシア ④ 特発性食道破裂 ⑤ 胃・十二指腸疾患:	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
2 胃・十二指腸疾患: ① 胃十二指腸潰瘍(穿孔を含む) ② 胃癌 ③ その他の胃腫瘍(GISTなど) ④ 十二指腸癌	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
3 小腸・結腸疾患 ① 結腸癌 ② 腸閉塞 ③ 難治性炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎, クローン病) ④ 憩室炎・虫垂炎	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
4 直腸・肛門疾患 ① 直腸癌 ② 肛門疾患(内痔核・外痔核, 痔瘻)	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
5 肝臓疾患 ① 肝細胞癌 ② 肝内胆管癌 ③ 転移性肝腫瘍	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
6 胆道疾患 ① 胆道癌(胆嚢癌, 胆管癌, 乳頭部癌) ② 胆石症(胆嚢結石症, 総胆管結石症, 胆嚢ポリープ) ③ 胆道系感染症	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
7 膵臓疾患 ① 膵癌 ② 膵管内乳頭状粘液性腫瘍, 粘液性嚢胞腫瘍 ③ その他の膵腫瘍(膵内分泌腫瘍など) ④ 膵炎(慢性膵炎, 急性膵炎)	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
8 脾臓疾患 ① 脾機能亢進症 ② 食道・胃静脈瘤	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
9 その他 ① ヘルニア(鼠径ヘルニア, 大腿ヘルニア)	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
(2) 乳腺 ① 乳腺 乳癌	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
(3) 呼吸器		
1 肺疾患 ① 肺癌 ② 気胸	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
2 縦隔疾患 ① 縦隔腫瘍(胸腺腫など)	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
3 胸壁腫瘍	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
(4) 心臓・大血管		
1 後天性心疾患 ① 虚血性心疾患 ② 弁膜症	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
2 先天性心疾患	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
3 大動脈疾患 ① 動脈瘤(胸部大動脈瘤, 腹部大動脈瘤, 解離性大動脈瘤)	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
(5) 末梢血管(頭蓋内血管を除く) ① 閉塞性動脈硬化症 ② 下肢静脈瘤	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
(6) 頭頸部・体表・内分泌科(皮膚, 軟部組織, 顔面, 唾液腺, 甲状腺, 上皮小体, 性腺, 副腎など) ① 甲状腺癌 ② 体表腫瘍	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
(7) 小児外科 ① ヘルニア(鼠径ヘルニア, 臍ヘルニアなど) ② 陰嚢水腫, 停留精巣, 包莖 ③ 腸重積症	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
(8) 外傷	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A

専攻医氏名 : ()年目 :

専門研修実施施設 : 研修期間 :

プログラム統括責任者 : 指導医署名 :

経験目標2(手術・処置)	自己評価	指導者評価
外科診療に必要な各領域の手術を経験する。		
1 消化管および腹部内臓 (50例)	例	例
2 乳腺 (10例)	例	例
3 呼吸器 (10例)	例	例
4 心臓・大血管 (10例)	例	例
5 末梢血管(頭蓋内血管を除く) (10例)	例	例
6 頭頸部・体表・内分泌外科(皮膚, 軟部組織, 顔面, 唾液腺, 甲状腺, 上皮小体, 性腺, 副腎など) (10例)	例	例
7 小児外科 (10例)	例	例
8 外傷の修練 (10点) *	例	例
9 上記1～7の各分野における内視鏡手術(腹腔鏡・胸腔鏡を含む) (10例)	例	例

(1) 350例以上の手術手技を経験(NCDに登録されていることが必須)。

(2) (1)のうち術者として120例以上の経験(NCDに登録されていることが必須)。

8 外傷の修練

- * 体幹(胸腹部)臓器損傷手術 3点(術者), 2点(助手)
- ・上記以外の外傷手術(NCDの既定に準拠) 1点
- ・重症外傷(ISS 16以上)初療参加 1点
- ・外傷初期診療研修コース受講 6点
- ・e-learning受講 3点
- ・外傷外科手術指南塾受講(日本Acute Care Surgery学会主催講習会) 3点

経験目標3	自己評価	指導者評価
地域医療への外科診療の役割を習熟し, 実行できる。		
1 連携施設(または基幹施設)において地域医療を経験し, 病診連携・病病連携を理解し実践することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
2 地域で進展している高齢化または都市部での高齢者急増に向けた地域包括ケアシステムを理解し, 介護と連携して外科診療を実践することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A
3 在宅医療を理解し, 終末期を含めた自宅療法を希望する患者に病診または病病連携を通して在宅医療を実践することができる。	A・B・C・D・N/A	A・B・C・D・N/A

専攻医氏名 :

()年目 :

専門研修実施施設 :

研修期間 :

プログラム統括責任者 :

指導医署名 :

1	研修プログラムについて	A 満足 B やや満足 C どちらともいえない D やや不満 E 不満
()		
2	指導体制について	A 満足 B やや満足 C どちらともいえない D やや不満 E 不満
()		
3	研修全体について	A 満足 B やや満足 C どちらともいえない D やや不満 E 不満
()		

専攻医氏名 : ()年目 :

専門研修実施施設 : 研修期間 :

プログラム統括責任者 : 指導医署名 :

1	コアコンピテンシー	
		[]
2	到達目標1(専門知識):外科診療に必要な下記の基礎的知識・病態を習熟し,臨床応用できる.	
		[]
3	到達目標2(専門技能):外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し,それらの臨床応用ができる.	
		[]
4	到達目標3(学問的姿勢):外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し実行できる.	
		[]
5	到達目標4(倫理性、社会性など):外科診療を行う上で,医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとして適切な態度と習慣を身に付ける.	
		[]
6	経験目標1:外科診療に必要な下記の疾患を経験または理解する.	
		[]
6	経験目標2(手術・処置):外科診療に必要な各領域の手術を経験する.	
		[]
7	経験目標3:地域医療への外科診療の役割を習熟し,実行できる.	
		[]
8	その他	
		[]